

2017年5月30日

東急不動産株式会社

**インドネシア現地法人東急不動産インドネシア社 外資系デベロッパー初
BCIアジア社が選ぶ現地トップ10デベロッパーに選出**

東急不動産(本社:東京都港区、社長:大隈郁仁)の現地子会社である東急不動産インドネシア社(本社:ジャカルタ首都特別州、社長:斎藤圭司、以下「TLID」)がBCIアジア社により選出される2017年インドネシア トップ10デベロッパーに外資系デベロッパーで初めて選出されましたのでお知らせいたします。

インドネシア トップ10デベロッパーの選出は、オーストラリアおよびアジア各国で不動産・建設関係の調査を実施しているBCIアジア社が東南アジア7か国にて2011年より行っており、プロジェクトの規模や環境配慮性能等に基づき、各デベロッパーを評価し選出しています。

TLIDの受賞は、現在インドネシア現地で開発・工事・販売活動を実施中の「BRANZ SIMATUPANG」および「BRANZ BSD」が評価されたもので、インドネシアでは初めての外資系デベロッパーでの受賞となります。(関連URL : <http://www.bciasiatop10awards.com/>)



受賞したトロフィー



授賞式の様子

■BRANZ SIMATUPANG及びBRANZ BSDにおける環境配慮に関する取り組み

Low-E ペアガラスや全戸LED照明の採用だけでなく、HEMSによる電力の見える化※を実施しており、日本の技術やシステムをインドネシアで初めて採用するなど、購入者や入居者の方の生活の快適さを目指すだけでなく、環境への配慮に積極的に取り組んでいます。

※HEMSによる電力の見える化は、BRANZ BSDのみ採用。

■BCIアジア社によるインドネシア トップ10デベロッパーについて

2017年の受賞はTLIDのほか、インドネシアの大手財閥グループであるシナルマスグループの「シナルマス・ランド」や「チプトラグループ」、「リッポーグループ」などが選出されています。

■BRANZ SIMATUPANG

南ジャカルタ・Simatupang地区に位置する「BRANZ SIMATUPANG」は企画から設計、開発、施工、販売、広告のすべてを日本企業が行い、オールジャパンの技術を結集したプロジェクトです。

【BRANZ SIMATUPANG概要】

敷地面積	約15,000㎡
総戸数	381戸(予定)
着工	2016年3月
引渡(予定)	2018年12月



BRANZ SIMATUPANG 完成予想図

■BRANZ BSD

イオンモールの第一号店をはじめ都市機能の整備が進むジャカルタ近郊のブミ・スルポン・ダマイ(BSD)地区中心エリアでの大型開発プロジェクトで、歩車分離などをはじめ環境配慮や安全・安心を提案するインドネシア版スマートレジデンスです。

【BRANZ BSD概要】

	第1期 (BRANZ BSD藍)	全体プロジェクト概要
敷地面積	約16,000㎡	約53,000㎡
総戸数	1,256戸	約3,000戸(予定)
着工	2015年9月	-
引渡(予定)	2018年12月	-



BRANZ BSD 完成予想図

■プロジェクト位置図(広域)



※CBD:central business district